

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	栃木県
-------	-----

・学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	栃木県那須郡黒羽町立川西小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	10
児童数	30	28	31	25	28	28	0	170	

・実践研究の概要

1. 研究主題

かがやく瞳・みがき合う心・ひかる汗
 —— 楽しく学ぶ子どもの姿を求めて(算数科を中心に) ——

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・算数科
 ・学力向上のために必要な教科であるため。(保護者アンケートより)
 ・系統性が強く、学力の差がつきやすい教科であるため。
 ・T・Tによる様々な学習形態の工夫や評価力・指導力の向上を図って研究を深めるためには教科を1つに絞ったほうがよいと考えたため。

(2) 年次計画

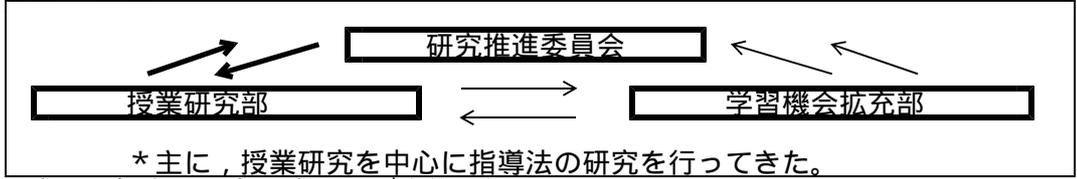
平成 14 年度	<p>テーマ かがやく瞳・みがき合う心・ひかる汗 —— 国語・算数科の学習を通して ——</p> <p>仮説 1 児童の実態を的確に捉え、効果的な個に応じた指導の在り方を工夫すれば、確かな学力が身に付くだろう。 2 基礎的基本的な知識や技能の習熟を図る学習機会を拡充するための工夫改善を行えば確かな学力が身に付くだろう。</p> <p>研究内容・方法 1 ・児童の実態を的確に捉えるための方法を工夫する。 ・実態に現れる個人差に応じて、どのようなT・Tの形態が適切か授業実践を通して研究する。 ・学級を2つに分けて指導を行う場合の学習内容を研究する。 ・柔軟性のあるT・Tの研究をする。(国算から他教科へ) 2 ・音読や暗唱、漢字や計算、読書等の効果的な時間の設定や内容を研究する。 ・学級の時間(週2回6校時)の効果的な活用を研究する。</p>
----------------	---

平成 15 年度	<p>テーマ かがやく瞳・みがき合う心・ひかる汗 - 楽しく学ぶ子どもの姿を求めて(算数科を中心に) -</p> <p>研究の見通し(仮説) 1 児童の実態を的確に捉え、効果的な個に応じた指導の在り方を工夫すれば、確かな学力が身に付くだろう。 2 基礎的基本的な知識や技能の習熟を図る学習機会を拡充するための工夫改善を行えば確かな学力が身に付くだろう。</p> <p>研究内容・方法 1 ・児童の実態を的確に捉え、指導と評価の一体化を図る授業の構想 ・個性の伸長を図り、楽しく学ぶ子どもの姿を求めるT・Tの在り方を研究する。 2 ・音読や暗唱、漢字や計算、読書等の内容の充実を図る。 ・学級の時間(週2回6校時)の効果的な活用を図る。 ・学ぶ習慣の形成</p>
----------------	--

平成 16	<p>テーマ かがやく瞳・みがき合う心・ひかる汗 - 楽しく学ぶ子どもの姿を求めて(算数科を中心に) -</p> <p>研究の見通し(仮説) 1 児童の実態を的確に捉え、効果的な個に応じた指導の在り方を工夫すれば、確かな学力が身に付くだろう。 2 基礎的基本的な知識や技能の習熟を図る学習機会を拡充するための工夫改善を行えば確かな学力が身に付くだろう。</p>
----------	---

年度	研究内容・方法
	1 ・児童の実態を的確に捉え、指導と評価の一体化を図る。 ・個性の伸長を図り、楽しく学ぶ子どもの姿を求めるT・Tの在り方を研究する。(算数科を深める。図工科へ広める。)
	2 ・音読や暗唱、漢字や計算、読書等の内容の充実を図る。 ・学級の時間(週2回6校時)の効果的な活用を図る。 ・学ぶ習慣の形成

(3)研究推進体制



*主に、授業研究を中心に指導法の研究を行ってきた。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

算数科でT・Tの授業を年間通して行い、指導計画表を作ることができた。
「算数科における授業の留意点」を作成し、指導計画や授業に活用できた。
実態に合わせたT・Tの学習形態をとることができた。
7つの学習場を設定し、それに合わせたノートの取り方が身についてきた。
7つの学習場面に合わせて、T1、T2の役割をマニュアル化することができた。
児童の算数科への興味・関心が高まった。(H15・7とH15・12との比較：全校生)
(算数がとても好き 7月25% 12月31% とても嫌い 7月6% 12月3%)

2. 今後の課題

日々のT・Tの授業を質的にどう高めていくか。
・評価規準の具体的な見取りとふり返りカードの生かし方をどうするのか。
授業では分かって数日で忘れてしまうなど、知識・理解、技能面での定着の弱さを感じられる。(忘れてしまうと、興味・関心面も弱まる)
・「学びの環境作り」をどう進めるか。
・家庭との連携を深め、望ましい家庭学習の在り方とはどんなものか。
・2学期制に伴っての休日や休業中の学びの継続性をどうするか。
T・Tでは個に応じやすい反面、「学び合い」の場が弱かった。
・学び合いの場面のT・Tの在り方をどう深めていくか。
・間違いを指摘されたり、批判されたりしても柔軟に応じられる児童をどう育成していくか。

・学力把握のための学校の取り組みについて

・定期的な学力調査 国語・算数(教研式学力検査4/16) ・ワークテスト
・漢字計算50問テスト(1学期2回 2学期2回 3学期1回) ・評価補助簿

・フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・平成15年8月20日(場所川西小学校)金砂郷町学力向上対策協議会視察
・平成15年10月31日(場所：川西小学校)公開授業研究会(対象：町内)
講演「子ども一人一人の確かな学びを共に創る算数科学習指導の実際」
講師 河内教育事務所 副主幹 星 成雄 先生
・フロンティア便りの発行

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 √ 14年度から継続
- 【学校規模】 √ 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～34学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 √ T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 √ 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 √ 有 無